

戦後日本のおもな読書調査について  
—その系譜と類型に関する比較研究—  
A Comparative Study of Reading Surveys in Postwar Japan

北 島 武 彦  
Takehiko Kitajima

*Résumé*

Reading surveys in postwar Japan have increased their accuracy by using statistical methods. This article examines and compares in detail the following three nation-wide reading surveys:

1. Survey of public opinions on reading (1947- ) by the Mainichi Press.
2. Nation-wide survey of reading in farming villages (1946- ) by the Ienohikari Association.
3. Social survey on reading (1956-1959) by the Japanese Society for the Science of Reading.

These three surveys are carried out nearly every year and each has characteristics. The writer studies, for each, the number of samples, the method of sampling, the method of survey, items in the survey and the result of the survey.

The first survey has the largest scale and has three divisions, namely the general survey, the book-stores survey and the school libraries survey. Its object is to purify publications. The second survey is focused on reading, especially of magazines, in farming communities. The result reveals an upward tendency of reading magazines and a downward tendency of reading books. The third survey is carried out mostly in urban areas. It tries to analyze reading behavior through checking the quantity of each title sold in book-stores. It is distinctive in its market-research nature.

This article searches common and different points among the three surveys and tries to make a contribution to the field of library administration by studying the genealogy and the methodology of reading surveys which generally have

been left unexplored.

(Tokyo Gakugei University)

- I まえがき
- II 戦後における読書調査について
- III 戦後における主な読書調査の分析
- IV 結び

I. まえがき

筆者はさきに日本図書館学会研究発表大会（昭和35年10月、於慶応義塾大学）の席上、「戦後日本における読書調査の系譜とその様相」と題する研究発表をおこない、さらにその結果を「図書館学会年報」（第8巻第1号、昭和36年8月）に掲載した。その要旨は、戦後日本でおこなわれた主な読書調査を時間的系列にしたがってとり上げ、調査方法、調査内容、主な調査結果などを概観したものであったが、時間および紙数の制約上文字どおり概観したにとどまり、各読書調査の十分な分析、相互の比較研究にまでふれることができなかった。たまたま本誌編集者から上記研究発表を別な角度から要約、発表してほしいとの依頼があったので、諸読書調査のうち、とくに全国的読書調査である「読書世論調査」、「全国農村読書調査」、「読書社会調査」の3つをとり上げ、比較研究的観点からまとめたものが本稿である。

II. 戦後における読書調査の発展について

読書調査は何も戦後の産物ではない。たとえば「図書館雑誌総索引 明治40(1907)年—昭和25(1950)年」(日

本図書館協会 昭和26年刊)の「読書調査」の件名の下をみると、戦前の読書調査の実例が散見され、たとえば「日本図書館協会 読書に関する調査」(昭和4年12月)、「平沢薫 文部省推薦児童図書館の読書状況調査について」(昭和16年1月)などをみることができる。このほか各機関が独自の立場でおこなった読書調査の実例——たとえば協会の読書調査など——を見聞するのである。このように読書調査は戦前からみられるが、戦後のそれに比較するならば、その数において、またその規模、調査技術などにおいて、はるかに遜色あるをまぬかれない。とくに戦後の読書調査が戦前のそれとことなる特徴の1つは、推測統計学における標本抽出理論(サンプリング理論)の発達により精度の高い標本調査法を援用した読書調査が発達したことである。戦後における社会学の流行と事物、現象の実証的方法としての調査ブームはめざましく、調査万能の感さえおこり、読書調査もその例にもれず、調査規模の大、小さまざまなものが無数にあらわれ、現におこなわれつつある現状である。しかしその中には調査方法のはなはだあいまいで、かつきわめて限られた小地域でおこなわれたものが多い。本稿では前稿同様これら無数の読書調査のなかから、調査方法が学問的に正しく、かつ調査規模の全国的な代表的読書調査3つをとり上げ、その分析、比較研究をおこない、戦後の読書調査の系譜と特徴をあきらかにしようとするものである。

読書調査の分析をおこない、その系譜をあきらかにすることは、読書論の他を分析することにより、日本人の読書観の史的变化をあきらかにすることとならんで、日本人の読書状況、読書への精神的構えを解明することに、その意義があるといえよう。

### III. 戦後における主な読書調査の分析

#### 1. 毎日新聞社 読書世論調査

今日、日本における代表的な読書調査の1つであり、現在の読書調査ブームの先駆をなし、日本人の読書状況に言及するさいに、かならずといってよいほど引用される影響力の強いものであり、さきに「毎日出版文化賞」を受賞した。

昭和22年に第1回がスタートし、以後毎年1回連続しておこなわれ、昭和36年に第15回を迎え、その中間報告が「毎日新聞」昭和36年11月4日号朝刊、同8日号、9日号各夕刊に発表されている。

第1回(昭和22年)の調査報告をみると、「どんな本が

読まれるか——第1回出版世論調査に見る——」と題するB5判、43頁のザラ紙に印刷された報告書が昭和23年1月20日付で刊行されている。これをもっともあたらしい第14回(昭和35年)調査報告である「毎日新聞社編 読書世論調査 第14回」のA5判、177頁(昭和36年4月25日刊)と比較すると、前者には紙質、頁数、内容等の面で戦争直後の爪跡をまざまざとみることができ、今昔の感にたえない。こうした変化は形態的な面のみでなく、調査内容においても幾多の変遷をみることができる。

この調査のスタートした時の目的は、一国の文化をあらわす尺度としての出版物についての世論を調査し、国民が何を求め、何を考えているかを知り、悪書を駆逐し、出版界の浄化をはかるということであった。この目的は今日もお継承されており、いわばこの読書調査の根幹の性格をなしている。

この調査は第1回以来、国民全体を対象とした「一般読者調査」と書店を対象としてベスト・セラーズを調査した「書店調査」から成り、さらに第8回(昭和29年)には一般読者調査のほか、平素多くの書籍に親しんでいる層を対象とした「読書人調査」を特集し、第10回(昭和31年)以降は小、中、高校生を対象とした調査と、教師を対象とした「学校図書館調査」が毎年おこなわれており、逐次その規模を拡大しているのが現状である。

調査方法をはじめサンプル数、サンプリングなども第1回以来現在に至るまでにかなり変化しており、たとえば第1回とさいきん8年間、すなわち第7回(昭和28年)～第14回(昭和35年)を比較すると、つぎのように変化している。

#### (1) サンプル数

##### A. 一般読者調査

表1をみると、第1回は10,000人であるが、第7回以降はおおむね14,000～15,000人前後を抽出し、毎回男に比較して女のほうが若干多いことがわかる。これは当時の全国男女比人口をほぼ反映しているとみることができる。また第1～4回まで年令を数え年18才以上としているが、その理由は18才といえは旧制中学5年生(新制高等学校2年生)であり、大体において子どもから大人に仲間入りする、読書欲のさかんな年令層であるとのべているが、この年令区分はかなり主観的で、かつ新学制である六三制と旧学制の過渡期を示すものである。この点において第5回以降年令を満16才以上としたことは、新制高等学校在学以上を調査対象としたことになり、第

4 回以前にくらべ、合理化したといえることができる。

#### B. 書店調査

表 1

回 数	年 度	サ ン プ ル 数			年 令
		男	女	計	
第 1 回	昭和22年	5,000	5,000	10,000	数え年 18才以上
第 7 回	昭和28年	7,464	7,847	15,311	満16才以上
第 8 回	昭和29年	7,407	7,702	15,109	"
第 9 回	昭和30年	7,489	7,564	15,053	"
第10回	昭和31年	7,470	7,743	15,213	"
第11回	昭和32年	7,869	8,065	15,934	"
第12回	昭和33年	7,700	7,937	15,637	"
第13回	昭和34年	6,838	7,062	13,900	"
第14回	昭和35年	7,342	7,402	14,744	"

(注) 年令を満16才以上としたのは第 5 回 (昭和26年) 以降である。

第 1 回調査以来「一般読者調査」とならんでこの調査の支柱をなしている「書店調査」のサンプル数は、表 2 のように変遷している。

表 2

回 数	年 度	サンプル数	回 数	年 度	サンプル数
第 1 回	昭和22年	436	第11回	昭和32年	344
第 7 回	昭和28年	360	第12回	昭和33年	285
第 8 回	昭和29年	350	第13回	昭和34年	330
第 9 回	昭和30年	350	第14回	昭和35年	350
第10回	昭和31年	356			

すなわち年度によって多少増減しているが、毎年ほぼ 350 店前後を抽出している。

#### C. 小・中・高校生および学校図書館調査

すでにのべたようにこの調査では第10回以降、全国の小中高校生および学校図書館調査をおこなっているが、サンプル数は表 3 のとおりである。

表 3

回 数	年 度	サ ン プ ル 数											
		小 学 生			中 学 生			高 校 生			学 校 図 書 館		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	小学校	中学校	高 校
第10回	昭和31年	2,511	2,397	4,908	2,491	2,442	4,933	2,801	2,005	4,806	315	317	—
第11回	昭和32年	2,463	2,438	4,901	2,511	2,435	4,946	2,983	2,272	5,255	348	312	—
第12回	昭和33年	2,504	2,440	4,944	2,406	2,392	4,798	2,819	1,804	4,623	312	336	—
第13回	昭和34年	2,385	2,323	4,708	2,341	2,254	4,595	2,648	1,717	4,365	324	328	—
第14回	昭和35年	2,265	2,179	4,444	2,196	2,228	4,424	2,311	1,878	4,189	302	315	395

表 3 をみてもわかるようにこの調査では毎回、小・中・高校生各 4,000 人以上、計約 13,000 人以上のサンプルと、学校図書館から小・中・高校各 300 館以上、計約 1,000 館以上のサンプルを抽出しているが、とくに学校図書館調査において第14回以降高等学校をあらたに調査対象として加えたことは、小・中・高校生のサンプル数の多いことと共に、この調査が大規模であり、文字どおり日本における代表的読書調査であることを裏書きしているといえることができる。

#### (2) サンプリング

サンプル数が年々多少ずつ変化しているのと同様に、

サンプリングも年度によって多少変化を示している。

#### A. 一般読者調査

第 1 回 (昭和22年) には 10,000 のサンプルを 1 都 1 道 2 府 42 県に特定の比率で割りあてている。すなわち単なる人口比によらず、「地方別総合文化度」を推定し、これにもとづいて各都道府県を 5 クラスに格付けし、以下にのべるようなサンプルの割りあてをおこなっている。この「地方別総合文化度」の資料となったのは、当時の日本出版配給株式会社 (日配) の全国都道府県別書籍販売部数、放送聴取者数、新聞普及率、昭和17年の徴兵検査における壮丁の学歴調査、大学、高専の分布状態、同学生数、

## 戦後日本のおもな読書調査について

都市の分布状況、人口などであった。つぎにクラスにわけられた各都道府県とサンプル数は、つぎのとおりである。

- A地区 東京都 1,000(10%)
- B地区 大阪府 700(7%)
- C地区 北海道他5府県 各400(各4%)
- D地区 静岡県他12県 各200(各2%)
- E地区 青森県他24県 各132(各1.32%)

この方法はのちに宮崎県立図書館がおこなった「宮崎県における読書世論調査」に大きな影響をあたえており、一種の層化とみられるが、上述のような形で「地方別総合文化度」を推定し、しかもこのような要因によって地域を層化することは、きわめて疑問が残るというべきである。以上が第1回のサンプリングであるが、さすがに第7回以降ではこのような層化方法をとっていない。すなわち第7回以降の層化方法は全国を人口比により大都市、市部、郡部に層化、各層から調査地点をランダムに抽出、各調査地点から世帯を抽出し、その世帯に属する満16才以上の人々をサンプルと規定している。爾後この抽出方法は毎年継承されているが、第11回(昭和32年)以降はさらに全国市町村を人口によって13ないし21に層化し、ランダムに調査地点を、さらに各調査地点ごとに等間隔抽出法により世帯を抽出する方法にあらため、第14回においては、第1段階として全国の市町村を国勢調査の人口数によって層化、市部はさらに6大都市、大都市(人口200,000人以上)、中都市(人口100,000人以上)、小都市(人口100,000人以下)にわけ、郡部を21に層化するという、いわゆる多段式層化抽出法にあらためている。このようなサンプリングの変遷のなかに、戦後におけるサンプリング理論の進歩の反映をみることができるが、ただ第1回は別として、第7回以降だけをみても、いずれのばあいにも抽出された世帯に属する満16才以上の成員をサンプルと規定していることは、個人を対象とした読書調査であるとともに、世帯調査的色彩が強く、他の読書調査とはことなった性格のものであることに注意する必要がある。第1～14回を通じていえることは、この調査が純粋な標本抽出法によるサンプル・デザインを採用したのは第2回以降である。

### B. 書店調査

第1回には「一般読者調査」同様、全国331の調査地点を「地方別総合文化度」によりつぎの5地区に層化し、サンプルを割りあてている。

- A地区 東京都区部 23店

- B地区 大阪市、京都市 各10店
- C地区 6大都市にふくまれる残余の都市のほか、地方ブロック的文化中心の意味から総合大学所在地をとった。すなわち横浜市、名古屋市、神戸市、札幌市、仙台市、福岡市 各5店
- D地区 地方的文化中心としての残余の県庁所在地と人口100,000人以上の市 各2店
- E地区 残余の市と毎日新聞社通信機関所在の町 各1店

この抽出方法は個人のサンプルを抽出したばあいと同様、「地方別総合文化度」によった点に問題があり、とくに地区の設定法には議論の余地がある。第7回以降は都道府県の人口比にしたがい、小売全連の全国書店名簿などによってランダムに抽出しており、この面でも進歩の跡をうかがうことができる。

### C. 小・中・高校生および学校図書館調査

すでにのべたようにこの調査は第10回以降あらたに加えられた調査であるが、サンプリングは第10～14回を通じてほとんど変化がみられない。すなわち調査対象は小学校では4・5・6年、中学校、高等学校では各学年とし、まず文部省統計資料により全国の小・中・高校生数都道府県別比率をもととし、各都道府県の調査校数をきめた。ついで「全国学校名鑑」により個々の調査校を抽出している。さらに各調査校ごとに小学校では4・5・6年、中学校では各学年から任意に1学級を選び、各学級から等間隔抽出法により10人ずつを抽出している。また高等学校では高校生の男女比によって各校ごとに男女いづれかに対象を定め、小・中学校と同一方法でサンプルを抽出している。一方学校図書館の抽出は上述の方法により抽出された調査校のほか、さらに「全国学校名鑑」からランダムに抽出したほぼ同数の調査校をも加え、それらを合せてサンプルと規定している。

### (3) 調査方法

以上のようなサンプリングにより抽出されたサンプルについてはいずれも調査票を配布し、あらかじめ記入してもらったうえ、のちに回収するという配票調査法をとっていることが第1回調査報告に明記されている。第7回以降の調査報告には、この点が明記されていないが、おそらく同様な方法を用いていることが推定され、これは調査規模が大きく、全国的範囲にわたっている点からみて、やむを得ないであろう。いずれにしても、毎回その報告のなかで、この点を明記すべきである。

## (4) 調査項目

調査項目は第1回以降共通的な項目が多いが、またその時によって変化している面もみられる。第1回の調査項目はつぎのとおりである。

## A. 一般読者調査

- 問1 終戦後読んだ書籍のうち良かったもの (3冊以内)  
 問2 日本が文化国家として復興するには、どんな書籍の出版が必要か  
 問3 さいきん読んでいる雑誌名  
 問4 そのうち良い雑誌として推せんできるもの (1冊)  
 問5 書籍の入手方法、1ヶ月の書籍代  
 問6 出版に関する意見

## B. 書店調査

- 問1 終戦後の出版物でもっとも評判のよかったもの (3冊以内)  
 問2 読者から重版を希望されている書籍 (3冊以内)  
 問3 現在取扱っている雑誌のうち、各部門ごとにもっとも評判のよいもの  
 問4 どの位の値段の書籍がもっともよく売れるか  
 問5 購読者の男女別比率

(以上の調査項目は調査票のサンプルが示されていないので、調査報告の本文から筆者が推定してワーディングをおこなった)

この第1回調査の調査項目をみると、項目数のすくないこと、とくに出版界の動向、ベスト・セラーズに関するものが目立ち、項目全体としてはかなりプリミティブな感じがするが、調査目的と当時の世相から考えると、ある程度やむを得ないともいえよう。第7回以後の調査にも調査票が示されていないので、その全貌は明らかでないが、調査報告の本文から推定すると、第1回の調査項目の精神がかなり継承されているが、またかなり変化している点もよみとれる。たとえば第9回の書店調査では、成人向ベスト・セラーズ、雑誌を調査し、また新書本もとり上げている。さらに読者、書店調査で悪書追放の有無などをとり上げている。

また第10回以降はすでにのべたように、小・中・高校生、学校図書館を対象として加えているが、その調査項目を第10回についてみると、つぎのとおりである。

## C. 小学生調査

- 問1 1ヶ月間に教科書以外に読んだ書籍  
 問2 今までに読んだ書籍のうち、もっとも好きなもの

## の

- 問3 いつも読む雑誌  
 問4 毎月買う雑誌  
 問5 書籍、雑誌の入手方法  
 問6 いつも使用する参考書、辞典、百科事典、図鑑、課外読本  
 問7 学校図書館に備えつけてほしい書籍  
 問8 学校図書館利用状況

## D. 中学生調査

上記の小学生調査と全く同じ調査項目である。

## E. 高校生調査

- 問1 さいきん読んだ書籍のうち、よいと思ったもの  
 問2 好きな作家、著述家  
 問3 書籍の入手方法  
 問4 買っている書籍の種類 (単行本、文庫、新書判等)  
 問5 読んでいる書籍の種類 (内容)  
 問6 1ヶ月の書籍代  
 問7 1ヶ月に買う書籍の量  
 問8 新聞、雑誌の書評を読むか

さすがに小・中学生とはことなった調査項目から成っており、「問2 好きな作家、著述家」、「問8 新聞、雑誌の書評を読むか」という設問はこの年齢層にふさわしいものといえる。

## F. 学校図書館調査

この調査は教師に対してきいているが、つぎの調査項目から成っている。

- 問1 学校図書館に備えつけてある書籍のうち、もっとも多く読まれるもの  
 問2 生徒、児童に読ませたい書籍  
 問3 児童の読む書籍、雑誌記事について、とっている態度  
 問4 生徒、児童の読書興味、関心の喚起に特別な配慮をおこなっているか  
 問5 これから学校図書館に備えたい書籍

以上が主として第1回および小・中・高校生、学校図書館調査の開始された第10回を中心としてみた調査項目である。すでにのべたように調査項目の主要部分はほとんど動いていないが、逐次改善、変化のあとがみられ、もっともあたらしい第15回 (昭和36年) の調査項目は別紙調査票 1-6 のとおりである。(なおこの年の調査は小・中・高校生、学校図書館調査では第8回にあたっている) この最新の調査項目を従前のそれと比較すると、全般

的により詳細化し、とくに一般読者、小・中・高校生調査では、新聞、雑誌、ラジオ、テレビなど、いわゆるマス・メディア（Mass media）への接触率を調査しており、今日の時代状況をよくあらわしている。

#### （5）調査結果

各回の調査結果はそれぞれ出版された調査報告にゆずるが、ここでとくにとり上げておきたいのは国民の読書率とベスト・セラーズの変遷である。日本国民のどれだけの人々が書籍や雑誌を読んでいるかということを示す読書率の測定は、測定基準——たとえば読書の定義、調査対象とすべき期間の振幅——の設定如何により異なった結果を生じ、困難な問題である。この調査では「あなたは雑誌や書籍(本)を読んでいますか」という、やや漠然とした設問形式で測定しているが、第2回(昭和23年)以降毎年継続しているので、連年の比較、推移を明らかにし得る点が、最大の特徴である。一方「調査項目」の項でのべたような設問形式で、一般読者、書店の双方から毎回ベスト・セラーズを調査しているが、ある意味でベスト・セラーズはその時々国民の読書興味、読書への期待の方向を示すものであり、いわば国民の読書の質の一面を物語るとみてよいであろう。上述の観点から日本人の読書普及状況を示すものとしての読書率と、読書の質の一端を示すものとしてのベスト・セラーズの推移をみると、つぎのように変化している。

#### A. 総合読書率

総合読書率とは書籍か雑誌のいずれか、または双方を読んでいるものの割合を指し、昭和27年以降35年までを表にしたものが表4である。

表 4

調査年度	昭和27	昭和28	昭和29	昭和30	昭和31	昭和32	昭和33	昭和34	昭和35
総合読書率	55.2%	51.6%	50.9%	48.1%	55.9%	53.1%	51.8%	54.2%	52.9%

表4で注目されるのは、昭和30年において50%台を割ったほか、毎年50～55%台にあり、満16才以上の国民の半分以上は、書籍または雑誌を読んでいることである。この表でみる限り、さいきんしばしば話題となる読書へのテレビ攻勢はみられないが、実際には読書の質的な面での影響が増大しつつあるとみるのが至当であろう。この総合読書率、書籍読書率、雑誌読書率をサンプルの性別、年令別、学歴別、職業別などと関連させて分析すると興味あるデータが見出せるが、くわしくはさいきん出版された毎日新聞社編「読書世論調査」によるベ

スト・セラーズの動向(昭和36年刊)をみられたい。

#### B. ベスト・セラーズの推移

第1回の時に読者、書店からあげられたベスト・セラーズは尾崎秀実「愛情はふる星のごとく」、レマルク著、井上勇訳「凱旋門」、森正蔵「風雪二十年」、河合栄治郎「自由主義の擁護」、田辺元「懺悔道としての哲学」、河上肇「自叙伝」、夏目漱石「漱石全集」、河上肇「思い出」、同「経済学大綱」、宮本百合子「風知草」などであった。

これら今から15年前のベスト・セラーズの本名をみると、今昔の感にたえないものがある。これらの作品のうち、今日も広く読まれているものは「漱石全集」ぐらいのものではないだろうか。「ベスト・セラーズは3年は続かない」という言葉があるが、けだし名言というべきであろう。この15年前のベスト・セラーズをみて気がつくことは、共産主義者として戦前の弾圧に抗し、その生涯を貫いた河上肇博士の一連の作品、左右両陣営からの攻撃に屈せず、学問の良心と自由主義の擁護に生きた河合栄治郎博士の著作、当時日本の哲学界のチャンピオンであった田辺元博士の著作など、マルキシズム、リベラリズムを問わず、思想的作品がベスト・セラーズに入っており、宮本百合子の「風知草」などと相まって、当時の青年層、読書人の思想的指向を示すものとして興味深い。また獄中の尾崎秀実氏とその夫人、令嬢との書簡をまとめた「愛情はふる星のごとく」は、極限の状況下にある1個の人間精神と、愛するものへのヒューマニティを表現したものとして、当時の人々の心をとらえたものであり、森正蔵「風雪二十年」は戦前、戦中を通じて隠されたもの、国民の眼に秘匿されたものへの関心、曝露性をたくみにとらえた作品であり、爾後続出した曝露物、戦記物の先駆をなしたとみることができる。さらに第1回以降のベスト・セラーズを各回1点ずつあげると、表5のとおりである。

このベスト・セラーズの推移表をみると、ベスト・セラーズではフィクション(第2, 4, 6～8, 10～14回)と随筆・手記(第1, 3, 5, 9回)の中から出ていることがわかるが、また「風と共に去りぬ」、「人間の条件」に代表されるフィクションのほうが随筆、手記のノン・フィクションより長続きし、いわばベスト・セラーズのロング・ランを続ける可能性のあることがわかる。しかし概して「挽歌」に代表されるように、ベスト・セラーズは長続きせず、3年間ベスト・セラーズを続けることが困難であることをよく示している。

表 5

回 数	年 度	著 者 名	書 名
第 1 回	昭和22年	尾 崎 秀 実	愛情はふる星のごとく
第 2 回	昭和23年	太 宰 治	斜 陽
第 3 回	昭和24年	永 井 隆	こ の 子 を 残 し て
第 4 回	昭和25年	谷崎潤一郎	細 雪
第 5 回	昭和26年	波多野勤子	少 年 期
第 6 回	昭和27年	マーガレット・ミッチェル著 大久保康雄訳	風 と 共 に 去 り ぬ
第 7 回	昭和28年	同 上	同 上
第 8 回	昭和29年	同 上	同 上
第 9 回	昭和30年	佐 藤 弘 人	は だ か 随 筆
第10回	昭和31年	吉 川 英 治	新 平 家 物 語
第11回	昭和32年	原 田 康 子	挽 歌
第12回	昭和33年	五味川純平	人 間 の 条 件
第13回	昭和34年	同 上	同 上
第14回	昭和35年	同 上	同 上

このベスト・セラーズの分析はそれだけで1巻を成すほどの興味ある事実を多くもっており、読書観および出版の研究に必要な分野であるが、他日に期して今はこの程度にとどめておきたい。

以上毎日新聞社の「読書世論調査」について、そのサンプル数、サンプリング、調査方法、調査項目、主な結果に関し、比較研究的な点から分析を試みた。この読書調査は調査方法その他の点で多少問題点が残る、かつ調査報告書の出版形式の面で、たとえば調査票のサンプルを明示すべき点など改善の余地はあるが、とくにベスト・セラーズと日本人の読書状況を概観した全国的かつ継続的に実施したものとして、まず第一に指を屈すべき、代表的な読書調査であるといえることができる。

## 2. 家の光協会 全国農村読書調査

毎日新聞社の「読書世論調査」が開始された前年、すなわち昭和21年に第1回がおこなわれ、以後毎年実施されている読書調査である。この調査は上記「読書世論調査」および後述する日本読書学会の「読書社会調査」とともに、調査規模が日本全国にわたる、いわゆる全国調査の代表的なものであるが、もっとも歴史の古いこと、とくに農村社会を対象としていることなどに、その特徴

を見出すことができ、農村の読書状況を考察する際に欠かすことのできない代表的な読書調査である。この調査は農村において書籍や雑誌がどの程度いかなる動機から読まれているかを明らかにするため、すでにのべたように昭和21年以降毎年実施されているもので、その変遷をあとづけ、比較研究をするには、第1回以後の調査報告を分析する必要があるが、現存する調査報告は第5回(昭和25年)以降であり、かつ調査方法その他の点で顕著な変化を示しているのは第10回(昭和30年)以降であるので、便宜上第5、10、13～16回調査報告を資料として比較研究と分析をおこなうことにしたい。

### (1) サンプル数

この調査は農村読書調査である以上、サンプルを農村から抽出しているのは当然であるが、サンプル数においてかなり変化のあとを見ることができる。

表 6

回 数	年 度	サ ン プ ル 数			年 令
		男	女	計	
第 5 回	昭和25年	195	107	302	不 明
第10回	昭和30年	775	724	1,499	満 16～60才
第13回	昭和33年	835	686	1,521	〃
第14回	昭和34年	728	752	1,480	〃
第15回	昭和35年	1,286	1,301	2,587	〃
第16回	昭和36年	1,266	1,309	2,575	〃

(注) このサンプル数は実際に調査票を回収した数を示す。

表6を見て注目すべき点は、第5回と第10回以降の間にサンプル数の大きなひらきがあること、第15回以降のサンプル数が急激に増加していることである。

### (2) サンプリング

第5回ではその調査方法の説明によると、全国を北海道、東北、関東、信越、東海、近畿、中国、四国、九州の9地区に区分し、それぞれ1県を抽出、特殊事情のあるブロックからは2県を抽出、さらに町村はこれら11府県から無作為抽出法により抽出した町村で、その府県出身の組合学校生徒の出身町村となっている。そして11町村に30枚ずつの調査票を配付しているが、サンプルの抽出は「居住者名簿」に基き、各頁の第3位にあるものをまず抽出し、これら抽出されたサンプルを性、年令、学歴、配偶者の有無、生活程度、自小作、耕作面積などに

## 戦後日本のおもな読書調査について

より、町村実数の比に応じて抽出している。

以上のサンプリングにおいて注目すべき点は、調査員として従事した農業協同組合学校（現在の協同組合短期大学）生徒11名の出身地に合わせて府県および町村を抽出していることで、したがって無作為抽出法ではない。また特殊事情のあるブロックからは2県を抽出したとあるが、いかなる特殊事情があるかを明らかにしていない。したがってこの抽出法は有意抽出法ということができ、厳密に全国農村の姿を反映しているとはみとめがたい。要するに第5回当時はサンプル数からみても、抽出方法からみても初歩的段階にあり、プリ・テスト（Pre-test）的段階に近い。

これに反し第10回では総理府統計局の実施した国勢調査結果により、全国をその産業率により30層に層化し、各層の総人口に比例して1,500のサンプルを割当て、各層から確率比例抽出法により町村を抽出、各町村から世帯台帳によりサンプルを系統抽出法により抽出している。以後各回の調査とも多少の差はあるが、この層化2段抽出法を踏襲している。この第5回調査と第10回以後の調査を比較した時、あきらかに後者の方にサンプリングの面で科学性がみられ、第10回以降においてはじめてこの読書調査が統計学的分析にたえ得るものとなったことをみとめることができる。また同時に第1～9回調査が農民を重点としてきたのに反し、第10回調査以後は農民にのみ焦点を合せることなく、農村社会に焦点を合せており、より性格の広い、「全国農村読書調査」という名称にふさわしい特色を備えるに至っていることに注意すべきである。

### （3）調査方法

第5回以降毎回の調査において面接調査法を採用しているが、家の光協会職員、協同組合短期大学、鯉淵学園などの学生が調査員として従事している。この面接調査法をとったことは、この調査の1つの強みである。

### （4）調査項目

第5回の調査項目はつぎのとおりである。

問 1 今読んでいる雑誌のうち、毎月読む雑誌と時々読む雑誌

上記雑誌の読書動機と入手方法

問 2 もっともよく読む書籍および興味を感じた点、読書動機、入手方法

問 3 農業記事、家庭生活記事、社会・時局記事に望むもの（各2つ）

問 4 楽しく読むためにはどんな記事を望むか（2つ）

問 5 雑誌の頁数、定価はどの位が適当か

問 6 雑誌の別冊附録、臨時増刊にはどんなものを望むか

上記のほかフェイス・シート（Face sheet）として性、年齢、世帯主との関係、世帯主の職業、既・未婚、出身学校、サンプルの職業、村内における公けの役職、都会における労働経験の有無とその年数、職業、加入団体、ラジオ、ミシンの有無、耕地面積、自・小作の別（農地改革以前、以後）、家の収入、村民税、生活程度

以上はどのサンプルにも調査員が質問すべき項目であるが、このほか直接質問しがたい場合調査員の判断により記入すべき項目として、村の公けの会合への出席状況をはじめ、思想、宗教、村内文化運動、農村文化への関心、理解程度などに関する補助的調査項目が示されている。

この第5回調査項目をみて気がつく点は、書籍より雑誌調査へ重点がかけられ、とくに雑誌記事に対するサンプルの関心度をかなり突込んで調査していることと、思想、宗教、文化運動、農村文化への関心度、理解度まで分析しようとしていることである。これらの調査項目からうかがわれることは、この読書調査が家の光協会の「家の光」、「地上」などの雑誌をはじめ出版物の出版および販売方針を定めるための、いわばマーケット・リサーチ（Market research 市場調査）的色彩の強いことである。

第10回調査項目として、つぎの事項をとり上げている。

問 1 なにか雑誌を読んでいるか

問 2 毎月および時々読んでいる雑誌名

問 3 雑誌の入手方法

問 4 雑誌を読む目的

問 5 雑誌を読まない理由

問 6 今までに雑誌を読んだことがないか

問 7 書籍を読むか

問 8 さいきん1年間に読んだ書籍のうち、よいと思ったもの

問 9 書籍を読む動機と入手方法

問 10 好きな作家、著述家

上記のほかフェイス・シートとして性、年齢、結婚（既・未婚）、学歴、職業、家の職業、世帯主との続柄、生活程度、農地改革前の自・小作別、経営規模、主な収入源、文化財（新聞・ミシン・ラジオ・カメラ・蓄音



機)の有無

以上の調査項目を第5回のそれと比較すると、項目数が増加しているほか、依然として雑誌読書状況に比重がかけられていることがわかる。また問10には毎日新聞社「読書世論調査」の影響がみられるが、全体として第5回にくらべ、すっきりした形式となっている。

この第10回の調査項目は最新の第16回調査のそれと比較してもほとんど差はなく、わずかに後者において、新聞、ラジオ、テレビ、雑誌、映画などマス・メディアに対する関心度と接触目的を測定する項目が設立され、また所有する文化財にトランジスター・ラジオ、テレビ、電気洗濯機、レコード・プレーヤー、電気冷蔵庫、簡易水道等が附加されている点が時代の変化を示しているが、第10回以降調査項目はほぼ定型化されたものとみてよい。

#### (5) 調査結果

個々の調査結果についてはその都度発表されている調査結果にゆずるが、とくに注目したいのは書籍および雑誌の読書率の推移であり、表7のとおりである。

表 7

調査年度	昭和25	昭和30	昭和33	昭和34	昭和35	昭和36
書籍読書率	—	37.0%	33.1%	37.1%	30.4%	31.0%
雑誌読書率	—	76.9%	78.4%	82.6%	80.7%	82.0%

表7をみて注目すべき点は雑誌読書率は上昇傾向にあるのに反し、書籍読書率は逆に低下の傾向にあり、マス・コミ時代の読書状況を反映するものと推定できる。またこの読書率を毎日新聞社「読書世論調査」のそれと比較すると、表8のとおりである。

表 8

調査年度	昭和25	昭和30	昭和33	昭和34	昭和35	昭和36
書籍読書率	毎日	15.8%	21.7%	27.2%	29.4%	24.1%
	家の光	—	37.0%	33.1%	37.1%	30.4%
雑誌読書率	毎日	—	44.1%	50.8%	53.5%	51.4%
	家の光	—	76.9%	78.4%	82.6%	80.7%

すなわち書籍、雑誌読書率ともに「全国農村読書調査」のほうが高率であり、両者にはかなり差があるが、設問形式をみると「読書世論調査」のほうが、たとえば雑誌

の読書状況を「読む」、「読まない」の二者択一式にコーディングしてあるのに対し、「全国農村読書調査」では「読む」、「時々読む」、「読まない」の3段階にコーディングしており、同じような調査でも、設問形式、回答のコーディング方法により、異なる結果になるという具体的な事例とみることができる。

なおこの読書調査であげられているベスト・セラーズをみると、「読書世論調査」のそれと大差ないが、昭和30年度のみは異なっている。すなわちこの調査では昭和30年度のベスト・セラーズの第1位は吉川英治「宮本武蔵」であり、つづいて同「新平家物語」、佐藤弘人「はだか随筆」等の順になっているが、「読書世論調査」では、「はだか随筆」、「宮本武蔵」、菊田一夫「君の名は」等の順で、とくに農村における吉川英治物への人気を示していて興味深い。

以上が「全国農村読書調査」の概要であるが、この調査が統計学的にみて科学的なサンプル・デザインを採用し始めたのは第10回以降である。したがって第1回（昭和21年）に開始されたこの調査は、現在の日本における読書調査のうち、もっとも古い歴史を有するが、毎年の調査結果を比較研究し、農村読書水準の推移を分析するには第10回以降によらなければならない。またこの調査は農村における読書状況をとくに雑誌の読書状況を中心としてきわめて概括的にえがいたものであり、農村における読書の本質的な面をとらえるには他の調査、たとえば農山漁村文化協会「農民と読書」（昭和32年、34年に実施）のようなケース・スタディ的読書調査、家の光協会「農村婦人の労働と読書」（昭和34年実施）のような農村婦人の農業労働生活、家庭生活と読書との相関関係を解明した読書調査などと関連させながら分析する必要があるだろう。

以上この読書調査にはさまざまな限界はあるにしても、過去16年間継続的に実施し、農村の読書水準の推移を明らかにしていることは高く評価すべきであり、農村における読書運動と図書館活動を展開する場合の1つの有力な指針となり得るであろう。

#### 3. 日本読書学会 読書社会調査

昭和31年に創立された日本読書学会はその当初から学会活動の1つとして読書現象の社会学的研究を企図し、第4研究部会を設置して、とくに読書社会調査を実施してきた。その調査結果はすでに数回にわたり報告書として、あるいは同学会機関誌「読書科学」誌上に発表されてきた。筆者もこの第1回（昭和31年）調査以来参加して

戦後日本のおもな読書調査について

きたが、すでに紹介した「読書世論調査」、「全国農村読書調査」とはまた異なった特徴をもつ読書調査である。すなわちこの調査の目的は、書籍と人間を結びつける第1段階である書籍購読という現象から人間の読書行為を分析しようとするものであった。換言すれば「どのような書籍、雑誌がどのような人々によって購入されているか」ということを中心として、書籍購入現象を数量的に把握することにあり、そこから得られたデータをもととして、「読書」という問題を解明しようとしたのである。したがってこの調査は一面において読書に関する社会調査であるとともに、他面において出版市場のマーケット・リサーチの性格をもっていたといえる。この読書調査の系譜をたどるならば、昭和28年に

Booksの会と東京大学社会学研究室がおこなった「読者の生態調査——読書世論調査——」にまでさかのぼることができる。すなわちこの調査の企画、実施に当たった1人である故城戸浩太郎氏は、「読書社会調査」の実質的な企画に参加しており、調査対象の設定、サンプリング、集計様式等の面において、ほとんど同一であるとみてよい。ただ異なる点は「読書社会調査」は「読者の生態調査」にくらべ調査スケジュールが大きく、かつ第1回(昭和31年)～第6回(昭和34年)にわたり継続実施され、他の副次的諸調査、たとえば「パーソナル・インフルエンス調査」などを派生していることである。今この「読書社会調査」の沿革を図示すると、表9のようになっている。

表 9

年度 地域	第 1 回 (昭和31年12月)	第 2 回 (昭和32年 5 月)	第 3 回 (昭和32年11月)	第 4 回 (昭和33年 5 月)	第 5 回 (昭和33年11月)	第 6 回 (昭和34年11月)
東 京	店 頭 調 査 1	店 頭 調 査 2 外 売 調 査 1 パーソナル・イン フェルンス調査 態 度 調 査 1	店 頭 調 査 3 外 売 調 査 2 態 度 調 査 2	店 頭 調 査 4 外 売 調 査 3 態 度 調 査 3	店 頭 調 査 5 外 売 調 査 4	
名 古 屋		店 頭 調 査 1	店 頭 調 査 2	店 頭 調 査 3	店 頭 調 査 4	
京 阪 神			店 頭 調 査 1	店 頭 調 査 2	店 頭 調 査 3	
福岡・関門				店 頭 調 査 1	店 頭 調 査 2	
全 国						店 頭 調 査

表 10

年度 地域	第 1 回 (昭和31年12月)	第 2 回 (昭和32年 5 月)	第 3 回 (昭和32年11月)	第 4 回 (昭和33年 5 月)	第 5 回 (昭和33年11月)	第 6 回 (昭和34年11月)
東 京	741 (60)	1,709 (77)	1,421 (80)	1,665 (119)	1,328 (134)	
名 古 屋		518 (21)	583 (33)	582 (33)	483 (30)	
京 阪 神			1,207 (58)	1,524 (72)	1,127 (67)	
福岡・関門				602 (34)	515 (36)	
全 国						書 籍 4,334 雑 誌 2,914 (658)

(注) 上段の数字はサンプル数を、( ) 内の数字は対象小売書店数を示す

表9をみてもわかるように、この「読書社会調査」は逐年調査スケールが大きくなっており、第6回には名実ともに全国調査となっている。以下この調査のうち、もっとも代表的な店頭調査をとり上げ、そのサンプル数、サンプリング、調査項目、調査結果の変遷のあとをたどってみよう。

#### (1) サンプル数

この調査でとくに注意すべきはサンプルの設定方法である。すなわちすでにのべたように、この調査の目的が、小売書店を通じて「どんな書籍、雑誌がどんな人々によって買われているか」という書籍購入現象を通じて、「読書」の問題を解明することにあつた。したがって調査対象は小売書店を通じて書籍を購読した人間および購読された書籍であるが、実際にサンプリングの対象としたのは最終的には買われた書籍、雑誌であり、買った人間は書籍、雑誌に附随したものとして扱われている。すなわち最終的調査対象は小売書店で購入された書籍、雑誌であり、その書籍、雑誌を購入した人間は被調査者として選ばれたということである。なお第1～5回までは一貫して教科書、漫画、洋書などをのぞく単行本のみがサンプルとして抽出されているが、第6回では単行本のほか雑誌もサンプルとしていることは注意を要する点である。つぎに第1～6回のサンプル数および対象小売書店数は、表10のとおりである。

表10で注目すべき点は回を追うにしたがい調査地域の拡大されていることと、これに応じておおむねサンプル数が増加していること、およびすでにのべたように第6回には雑誌がサンプルとして加えられていることである。以上の点からこの調査のスケールの大きいことがわかるであろう。

#### (2) サンプリング

このように回を追うにしたがい、この調査では調査地域が拡大し、サンプル数が増加しているが、サンプリングは一貫した方法でおこなわれている。すなわち第1～5回では、まず調査地域所在の全小売書店をその経営規模により層化し、各層から一定の抽出比により対象小売店を抽出、各小売店で調査期日に販売された全書籍から一定の抽出比により抽出した書籍をサンプルとし、購読者に面接をおこなっている。また第6回では全国を調査対象としたので、まず全国市部中、東京都23区、横浜市、名古屋市、京都市、大阪市、神戸市、福岡市、および関門6市より通常の交通機関を用いて30分以内で行ける諸都市を加え、京浜圏、名古屋圏、京阪神圏、福岡・関門

圏の各都市圏を設定、さらにこれら都市圏に所属しない全国市部を圏外都市とし、人口および大学の有無を基準とし、層化ランダム・サンプリング (Stratified random sampling) により53都市を抽出している。この結果各都市圏および圏外都市群にふくまれる都市の内訳はつぎのとおりである。

表 11

都市グループ	クラス	書店抽出比	対象書店数	調査実施店数
京 浜 圏	A	$\frac{1}{1}$	30	30
	B	$\frac{1}{2}$	60	56
	C	$\frac{1}{4}$	66	60
	D	$\frac{1}{8}$	49	43
	E	$\frac{1}{16}$	70	50
名 古 屋 圏	A	$\frac{1}{1}$	23	20
	B	$\frac{1}{2}$	14	14
	C	$\frac{1}{4}$	14	13
	D	$\frac{1}{8}$	11	10
	E	$\frac{1}{16}$	10	5
京 阪 神 圏	A	$\frac{1}{1}$	27	23
	B	$\frac{1}{4}$	21	19
	C	$\frac{1}{8}$	19	18
	D	$\frac{1}{16}$	18	16
	E	$\frac{1}{32}$	40	14
福岡・関門圏	A	$\frac{1}{1}$	17	17
	B	$\frac{1}{2}$	12	10
	C	$\frac{1}{4}$	8	7
	D	$\frac{1}{8}$	3	3
	E	$\frac{1}{16}$	8	8
圏 外 都 市	A	$\frac{1}{1}$	66	63
	B	$\frac{1}{2}$	53	50
	C	$\frac{1}{4}$	36	32
	D	$\frac{1}{8}$	25	21
	E	$\frac{1}{16}$	94	56

戦後日本のおもな読書調査について

表 12

都 市 グ ル ー プ	ク ラ ス	書 店 抽 出 比	サ ン プ ル 抽 出 比	総 合 抽 出 比
京 浜 圏	A	$1/1$	$1/16$	$1/16$
	B	$1/2$	$1/8$	
	C	$1/4$	$1/4$	
	D	$1/8$	$1/2$	
	E	$1/16$	$1/1$	
名 古 屋 圏	A	$1/1$	$1/16$	$1/16$
	B	$1/2$	$1/8$	
	C	$1/4$	$1/4$	
	D	$1/8$	$1/2$	
	E	$1/16$	$1/1$	
京 阪 神 圏	A	$1/1$	$1/32$	$1/32$
	B	$1/4$	$1/8$	
	C	$1/8$	$1/4$	
	D	$1/16$	$1/2$	
	E	$1/32$	$1/1$	
福岡・関門圏	A	$1/1$	$1/16$	$1/16$
	B	$1/2$	$1/8$	
	C	$1/4$	$1/4$	
	D	$1/8$	$1/2$	
	E	$1/16$	$1/1$	
圏 外 都 市	A	$1/1$	$1/16$	$1/16$
	B	$1/2$	$1/8$	
	C	$1/4$	$1/4$	
	D	$1/8$	$1/2$	
	E	$1/16$	$1/1$	

京浜圏 東京都 23 区ほか 11 市

名古屋圏 名古屋市ほか 12 市

京阪神圏 大阪市ほか 31 市

福岡・関門圏 福岡市ほか 7 市

圏外都市 網走市ほか 52 市

上記のように分けられた 5 つの都市グループにふくま

れる全小売書店を各都市グループごとに経営規模を基準にして段階にわけ、層化ランダム・サンプリングをおこなう、対象書店を抽出しているが、各都市グループにおける層別対象書店数および調査実施店数は、表 11 のとおりである。

かくして抽出された対象書店において調査当日購入された書籍、雑誌を書店の経営規模に応じてあらかじめ定められた一定の抽出比にしたがって系統抽出し、サンプルとすべき書籍、雑誌をきめている。この際上へのべた各都市グループにおける対象書店の抽出比とサンプルとなった書籍、雑誌の抽出比とが組み合わされて、総合抽出比が一定となるよう配慮されている点に注意を要し、これらの相関々係は表 12 のとおりである。

この総合抽出比は調査回数により多少変化はあるが、同一地域内においては一定にされている。

### (3) 調査方法

第 1～6 回を通じ面接調査員による他計式質問紙法にしたがっており、とくに第 6 回調査では延 1,644 名の調査員のほか、全国各地の 32 大学の教官等 57 名が地区ディレクターおよび協力者として調査のネットワークに参加していることは、この調査の精度を高め、円滑な運営に多大の寄与をしているといつて過言ではない。

### (4) 調査項目

この調査では第 1～6 回を通じ、調査項目はコーディングの修正およびあとにあげた A～D のうち C、D に関する項目の若干の変化をのぞき、大きく変化していない。このことがまた毎回の調査結果を時間的に比較、分析するために重要なことであり、この点においては「読書世論調査」、「全国農村読書調査」とも同様である。こころみに第 6 回の調査項目をみると別表 7 のように構成され、17 問にわかれてはいるが、大別すると

#### A. 買われた書籍、雑誌について

書(誌)名、叢書名(号数)、継続購入の有無、発行所、定価、判型、買った書籍、雑誌の合計冊数

#### B. 買った人について

性、年令、職業、学歴、収入

#### C. 買った人の、その書籍、雑誌を買うまでの動機、期待、目的などについて

#### D. 買った人の読書生活やマス・メディアに対する接触について

1 ヶ月間の読書量、一番よく目を通す新聞、一番よく目を通す週刊誌、毎月読む雑誌(週刊誌

をのぞく), 1ヶ月の書籍代から成っている。これら A~D のうち A, B はほとんど変化ないが, C, D は多少変化している。すなわち, C に関して第4回までの調査では, 書店に立ち寄って現物を見る以前にその書籍のことを知っている人々が, 何時, 何によって知ったかという, インフォメーション・ソース (Information source) に接触した時間的

先後関係を重点として調査していたのに対し, 第5回以後では影響の強さに重点をおき, さらにもっとも強い影響をあたえたインフォメーション・ソース (決定契機) を調査するように変化している。またDに関して第5回までは平均1ヶ月間に書店に立ち寄る回数, 書店への距

表 13

回数	年 度	分 類 地 域	総	哲	歴	地	伝	社	産	自	工	芸	家	ス	語	文	随	小	説	少	学
			記	学	史	誌	記	会	業・ 経 済	然 科 学	学	術	庭・ 厚 生	ポ ー ツ	学	学 一 般	筆・ 読 物	戯 日	曲 外	年・ 児 童	参
1	昭和31年 12月	東 京	—	5	4	—	—	8	7	6	6	—	5	—	7	24	—	9	4	4	11
2	昭和32年 5 月	東 京	0	5	2	2	0	12	14	4	3	2	4	—	12	6	4	16	2	2	—
		名古屋	0	2	1	2	1	4	5	4	9	1	6	—	10	2	—	27	15	3	—
3	昭和32年 11月	東 京	0	5	2	3	3	10	9	4	5	3	5	0	6	2	5	23	13	2	—
		名古屋	0	4	1	1	2	9	5	5	4	3	5	2	5	1	8	25	16	4	—
		京阪神	0	4	3	2	2	8	6	7	4	3	6	2	6	1	7	27	13	2	—
4	昭和33年 5 月	東 京	0	7	2	2	2	10	7	3	4	2	5	—	11	5	4	18	15	3	—
		名古屋	1	12	1	4	2	6	4	4	6	3	4	—	7	3	4	25	14	0	—
		京阪神	0	6	1	2	2	10	7	6	6	3	6	—	11	3	3	18	14	2	—
		福岡 門6市	0	7	2	0	1	9	5	5	6	2	4	—	14	3	4	26	10	2	—
5	昭和33年 11月	東 京	0	4	2	2	1	10	6	5	4	4	5	—	11	2	6	22	13	3	—
		名古屋	—	4	0	1	1	6	9	5	6	2	7	—	5	3	8	26	14	3	—
		京阪神	0	6	1	1	1	8	7	5	3	2	8	—	8	3	5	24	14	4	—
		福岡 門6市	—	5	1	1	1	9	8	4	3	2	8	—	11	2	5	25	10	5	—
6	昭和34年 11月	全 国	1	5	3	3	1	12	4	5	6	7	3	—	8	1	2	26	13	—	—

(注 1) 数字はパーセントを示す。

(注 2) 書籍の分類項目は各回により, 多少異なる場合がある。

戦後日本のおもな読書調査について

離、1日の平均読書時間、テレビと読書時間の関係、主として読書する場所などを調査していたが、第6回では上述のような調査項目に変化している。これらの調査項目、とくに上記 C、D に関する項目の変化の中に、この読書社会調査が単なる読書実態調査と異なり、出版市場調査の色彩の強いことをみることができるであろう。

(5) 調査結果

この調査の詳細な結果は各回の調査報告にゆずるが、とくに注目すべき点を 2～3 あげると、つぎのようになっている。

A. 購読書籍

まず購読された書籍を分類別にみると毎回文学、とくに第1回をのぞき小説、戯曲がトップを占め、常に安定をしている。さらに文学に続くものとして地域により多少の差はあるが、社会、語学に関するものがこれに続き、両者とも毎回10%前後の比率を示している。今これらの逐年の推移をみると、表13のとおりである。

B. 購読者

まず書籍、雑誌の購読者を性別からみると、書籍は毎回ほぼ 7:3 の比率を示し、あまり変動はない。逐年による推移は表14のとおりである。

つぎに年令をみると書籍は第4,5回の名古屋が15～19才にピークがみられるほか、20～24才にピークがみられ、雑誌は15～19才にピークがみられる。逐年による推移は表15のとおりである。

表 14

回数	年 度	性 別		男	女
		地 域			
1	昭和31年 12月	東 京		80	20
2	昭和32年 5月	東 京		76	24
		名 古 屋		70	30
3	昭和32年 11月	東 京		78	22
		名 古 屋		73	27
		京 阪 神		75	25
4	昭和33年 5月	東 京		71	29
		名 古 屋		74	26
		京 阪 神		79	21
		福岡・関門6市		73	27
5	昭和33年 11月	東 京		73	27
		名 古 屋		71	29
		京 阪 神		68	32
		福岡・関門6市		72	28
6	昭和34年 11月	全 国	書籍	73	27
			雑誌	56	44

(注) 数字はパーセントを示す。

表 15

回数	年 度	年令別		～14才	15～19才	20～24才	25～29才	30～39才	40～49才	50～59才	60才～	不明
		地 域										
1	昭和31年 12月	東	京	3	23	30	16	13	8	3	2	2
2	昭和32年 5月	東	京	2	25	42	11	11	4	3	1	1
		名	古 屋	3	29	30	15	13	5	3	1	1
3	昭和32年 11月	東	京	3	25	37	13	10	6	4	1	1
		名	古 屋	3	23	25	14	15	11	7	2	0
		京	阪 神	2	21	35	14	15	6	6	1	0
4	昭和33年 5月	東	京	3	26	37	12	13	5	3	1	—
		名	古 屋	5	35	26	12	11	6	4	1	—
		京	阪 神	4	23	38	14	12	6	2	1	—
		福岡・関門6市	3	22	29	14	18	10	3	1	—	

回数	年 度	年令別 地 域		～14才	15～19才	20～24才	25～29才	30～39才	40才49才	50才59才	60才～	不明
5	昭和33年 11月	東 京		3	24	34	16	13	6	3	1	0
		名 古 屋		4	30	25	17	15	5	2	1	1
		京 阪 神		4	26	32	12	14	8	3	1	—
		福岡・関門6市		3	22	26	20	14	9	4	2	0
6	昭和34年 11月	全 国	書籍	3	29	31	13	13	6	3	2	0
			雑誌	2	25	23	17	18	9	4	2	0

(注) 数字はパーセントを示す。

表 16

回数	年 度	職業別 地 域		専 門	管 理	事 務	販 売	自小企 営 業	労 務	農漁 林 業	学 生	主 婦	無 職	不 明
1	昭和31年 12月	東 京		14	8	23	—	3	4	0	44	2	1	1
2	昭和32年 5月	東 京		11	4	14	3	2	3	0	56	3	2	2
		名 古 屋		18	3	21	6	4	2	—	36	2	7	1
3	昭和32年 11月	東 京		11	5	16	2	3	4	—	52	3	3	1
		名 古 屋		15	5	25	4	2	5	0	35	3	5	1
		京 阪 神		13	5	21	4	4	5	0	39	4	4	1
4	昭和33年 5月	東 京		11	5	17	3	1	6	0	47	4	4	2
		名 古 屋		10	8	19	2	0	8	—	45	2	4	2
		京 阪 神		10	6	16	2	1	6	0	50	3	3	3
		福岡・関門6市		11	6	20	3	2	11	—	37	4	5	1
5	昭和33年 11月	東 京		11	5	20	3	3	6	0	44	4	3	1
		名 古 屋		12	4	23	3	2	7	0	42	2	5	—
		京 阪 神		13	5	15	2	3	6	0	45	5	5	1
		福岡・関門6市		19	3	25	1	2	6	—	37	3	4	—
6	昭和34年 11月	全 国	書籍	11	5	20	4	—	6	—	42	4	5	その他 不明 21
			その	10	3	17	9	—	11	—	24	15	7	その他 不明 22

(注) 数字はパーセントを示す。

## 戦後日本のおもな読書調査について

また書籍、雑誌の購読者を職業別にみると、書籍、雑誌とも圧倒的に学生が多く、40～50%を占めて群をぬき、つづいて事務従事者、専門技術者が多いが、雑誌購読者ではわずかではあるが労務者が事務従事者に続いて多いことは注目すべきである。逐年による推移は表16のとおりである。

さらに書籍、雑誌の購読者を学歴別にみると各回とも書籍購読者は大学・高専卒がもっとも多く、全体の半数から時には60%以上に及び、以下新高・旧中卒、新中・小卒の順となっているが、雑誌購読者は新高・旧中卒がもっとも多く、対照的な姿をみせている。逐年による推移は表17のとおりである。

表 17

回数	年 度	学歴別 地域		新小 中学	新旧 高中	大旧 高専	不明
1	昭和31年 12月	東 京		11	31	56	2
2	昭和32年 5月	東 京		5	29	64	2
		名 古 屋		12	36	50	2
3	昭和32年 11月	東 京		10	30	60	—
		名 古 屋		10	40	49	1
		京 阪 神		9	39	52	—
4	昭和33年 5月	東 京		6	35	58	1
		名 古 屋		9	42	49	—
		京 阪 神		6	31	63	—
		福岡・関門6市		10	36	54	—
5	昭和33年 11月	東 京		7	35	57	1
		名 古 屋		15	37	48	—
		京 阪 神		10	39	50	1
		福岡・関門6市		10	42	47	1
6	昭和34年 11月	全 国	書籍	12	41	46	1
			雑誌	23	49	27	1

(注) 数字はパーセントを示す。

以上のデータにより、書籍、雑誌購読者の姿をほぼ定型的にみることができる。

以上が「読書社会調査」の概要であるが、その特徴はすでにのべたように、小売書店で購入された書籍、雑誌

の数量的分析を通じて「読書」の問題を明らかにしようとした点にあり、マーケット・リサーチの性格を備えていることである。またこの調査を「読書世論調査」、「全国農村読書調査」と比較すると、小売書店で書籍、雑誌を購入した人々のみを調査対象としているのであるから、書籍、雑誌購入者＝読者(リーダー Reader)とはいえないにしても、ほぼリーダーのみを調査対象としてみるとみることができ、いわば読書人の読書調査といえることができる。さらにこの調査は第1回(昭和31年)以降第5回(昭和33年)までは春秋2回、第6回(昭和34年)は1回と、毎年継続的に実施している点に、「読書世論調査」、「全国農村読書調査」と同様の特色をみることができ、昭和35年以降中絶していることは遺憾である。

## IV. 結 び

以上戦後日本でおこなわれた数多くの読書調査の中から、調査規模その他の点で全国的に影響力が強く、注目すべきものとして毎日新聞社「読書世論調査」、家の光協会「全国農村読書調査」、日本読書学会「読書社会調査」の3調査をとり上げ、それぞれの特色、サンプル数、サンプリング、調査方法、調査項目、調査結果の変遷のあとを比較研究的観点からたどった。これら調査を比較すると、つぎの共通点および相違点をみることができる。

### 共通点

1. 調査スケールが全国的であり、影響力が非常に強い。
2. 1回の調査にとどめず、毎年継続的に実施しており、日本人の読書状況の推移の比較、分析が可能である。この点日本読書学会の「読書社会調査」が昭和35年以降中絶しているのは惜しい。
3. 新聞社、出版団体などのマス・コミ機関が直接、間接に関係し、おこなっている調査である。

### 相違点

1. 「読書世論調査」がどちらかといえば、ベスト・セラーズその他をふくむ出版界の動向と国民の読書率の調査に特徴があるのに対し、「全国農村読書調査」はとくに農村の雑誌読書状況に重点がおかれ、「読書社会調査」は小売書店における書籍、雑誌の買われかたに重点がおかれている。したがって後二者、とくに「読書社会調査」はマーケット・リサーチの性格が強い。



2. ともに全国的な読書調査ではあるが、「読書世論調査」が市部、郡部ともに調査地域としているのに反し、「全国農村読書調査」は農村を調査地域とし「読書社会調査」は市部を調査地域としている。
3. 「読書世論調査」、「全国農村読書調査」は読者(Reader)、非読者(Non-reader)をともに調査対象としているが、「読書社会調査」は主としてリーダーを調査対象とした、読書人調査に近い。
4. 「読書世論調査」、「全国農村読書調査」はそれぞれ人間をサンプルとしているが、「読書社会調査」のサンプルは購入された書籍、雑誌であり、購入した人間は書籍、雑誌に附随したものとして扱われている。
5. 「読書世論調査」では満16才以上の一般読者以外に、書店、小・中・高校生、学校図書館をも調査しており、他の2調査に比較して多角的である。
6. 「読書世論調査」が自計式質問紙法である留置調査法、集合調査法、郵送調査法などを併用してい

るのに対し、「全国農村読書調査」、「読書社会調査」は面接調査員による他計式質問紙法によっている。

このような読書調査の比較研究の意義は、つぎのような点にあるといえる。

1. 各読書調査が内包する調査技術、調査項目、調査結果などの推移の中に、読書調査の企図する最新の方角と、方法論の進歩のあとをたずねる。
2. 各読書調査の系譜、関係を明らかにすることによって、「読書」の社会的研究方法の1つである読書調査の流れを知る。
3. この結果、図書館活動の基礎となる読書調査に最新の方法論を導入し、図書館経営方針の設定に寄与する。

読書調査の系譜的研究と比較研究は、ほとんど未開拓の分野である。この小論文がこの分野の今後の進歩に役立てば幸いである。

(東京学芸大学)

# 別表 1

第15回読書世論調査  
(昭和36年9月)

—— 調查 ——

**お 願 い** この読書調査は、毎日新聞が昭和22年以来毎年行っているもので、その成果は各方面から高く評価されており、今回の調査結果はこの秋の読書週間（10月27日～11月9日）に毎日新聞紙上に発表いたします。

なお、あなたがこの調査の対象に選ばれたのは、一定の世論調査方式にもとづく引の結果によるもので、別に何らの他意はありません。この調査票はあなたご自身のお考えでご記入願います。

注 調査票中の X・Y や 1. 2. 3 … などの記号は、集計のための記号ですから、それにこだわらずに、該当箇所には○印をつけてください。

1 住 所	2 姓 名	3 年 令	4 学 歴		5 市 郡	6 区	7 村	8 町	9 備考
			男	女					
1	Col 6	1	非 世 帯 主		Col 9	郡	Col 9	女	ききつて認んでい る新制度
2		2	学 歴		由 業、町公内の幹部、自 由企業、大企業事務員、 公務員、大企業事務員、 中小企業主、商店主、 中小企業事務員、商店員 5 工員、職人、兼業主 6 農業者 7 商業者 8 大企業に在りてい る者 9 その他（無職を含む）				
3		3	男	女	1 経営者、総料理長者 2 全島従業員（御店、農家の 主理など） 3 主理（1、2に該当しない 警察事務員および農協） 4 学生				
		4	年	令	6 小学校、普通中学、田 高小卒 7 旧制中学校、普通中学卒 8 大学に在りてい る者 9 旧制専門学校卒				
		5	5 0	以 上					

問 1 あなたは雑誌や書籍（本）を読んでいますか。

1 題 読 (週刊読を含む)	3 読 む	4 読まない	X
2 番 読	5 読 む	6 読まない	Y

問 2 A あなたはいつもどんな雑誌を読んでいるか。

[illegible]

B あなたが毎月(週)買っているのはどんな雑誌ですか。

C115 ~ C0132  
 月刊誌名 ( ) ( ) ( ) ( ) ( )  
 週刊誌名 ( ) ( ) ( ) ( ) ( )  
 C とおどき買って読むのはどんな雑誌ですか。  
 雑誌名 ( ) ( ) ( ) ( ) ( )  
 D 借りて読むのはどんな雑誌ですか。  
 雑誌名 ( ) ( ) ( ) ( ) ( )

問 3 あなたは最近どんな書籍(本)を買って読みましたか。その書名を書いてください。

[illegible]

問 4 あなたは書籍を買うとき、おもに次のどれによりですか。

Col.22

1	新聞や雑誌の書評・新刊紹介を見て買う	4	書店で見て買う
2	新聞や雑誌の広告を見て買う	5	その他の方法（具体的に書いてください）
3	人から聞いて買う		

問 5 この一年間にあなたが読んだ書籍のうち、よいと思ったものの書名を書いてください。  
(そのうち買って読んだものには○印をつけてください)

[illegible]

6 図 あなたが戦後読んだ本の中で、いちばんよいと思ったものの書名を書いてください。

著者または出版社名

問 7 あなたの好きな著者の名と、その人の著書のうち好きなものの書名を書いてください。

[illegible]

問 8 あなたは月刊誌、週刊誌（旬刊誌などを含む）や書籍を買うのに一カ月平均いくらくらい使いますか。

月 刊 誌	週 刊 誌	季 刊 誌
(1) 100円以上	(1) 100円以上	(1) 300円以上
(2) 101 ~ 200円	(2) 101 ~ 150円	(2) 201 ~ 300円
(3) 201 ~ 300円	(3) 151 ~ 200円	(3) 301 ~ 400円
(4) 301 ~ 400円	(4) 201 ~ 250円	(4) 401 ~ 500円
(5) 401 ~ 500円	(5) 251円以上	(5) 501 ~ 1000円
(6) 501円以上		(6) 1001 ~ 2000円

(7) 2001円以上

問 9 あたは次のものを讀んだり、聞いたり、見たりするのに、平均して一日のうちのくらくら時間をついやしまするか。

[illegible]

## 別 表 2

## 全 国 書 店 調 査 (昭36.9)

問 1 昨年10月からの一年間にあなたの店で最もよく売れた書籍の名と出版社名を書き、いままでに売れた大体の冊数も記入してください。

成 人 向			幼 少 年 向		
	(出版社名)	冊		(出版社名)	冊
		冊			冊
		冊			冊
		冊			冊
		冊			冊
		冊			冊
		冊			冊

問 2 あなたの店で一番よく売れる成人向雑誌は何ですか、雑誌名を書いて売れた大体の冊数(月(週)平均)を記入してください。

週 刊 雑 誌				月 刊 雑 誌			
	週 冊		週 冊		月 冊		月 冊
	週 冊		週 冊		月 冊		月 冊
	週 冊		週 冊		月 冊		月 冊
	週 冊		週 冊		月 冊		月 冊
	週 冊		週 冊		月 冊		月 冊
	週 冊		週 冊		月 冊		月 冊
	週 冊		週 冊		月 冊		月 冊
	週 冊		週 冊		月 冊		月 冊
	週 冊		週 冊		月 冊		月 冊

問 3 あなたの店で一番よく売れる幼少年ものの雑誌は何ですか、雑誌名と売れた大体の冊数(月平均)を書いてください。

幼 年 向		小 学 低 学 年 向		小 学 高 学 年 向		中 学 生 向	
	冊		冊		冊		冊
	冊		冊		冊		冊
	冊		冊		冊		冊
	冊		冊		冊		冊
	冊		冊		冊		冊

問 4 あなたの店では売上げ総額のうち、外売と店売の比率はどうかっていますか。

外売

店売

%

%

所 在 地 及 書 店 名

戦後日本のおもな読書調査について

別表 3

(第八回) 小学生の読書世論調査 (昭36.6)

じぶんのあてはまるところに○印をつけてください				
男	女	四年生	五年生	六年生

問1 あなたはいつもどんな雑誌(ざっし)をよんでいますか。よんでいる雑誌の名をかいってください。その中であなたが毎月(または毎週)買ってもらっている雑誌には○印をつけてください。

答

○印	雑誌の名	○印	雑誌の名

問2 あなたはこの一週間にどんなまんが本をよみましたか。よんだまんが本の名をかいってください。

答

まんが	まんが

問3 あなたは四月からいままでに、教科書や参考書や雑誌をのぞいてどんな本をよみましたか。よんだ本の名をかいってください。

答

本の名	本の名

問4 あなたが、学校にはいつから、いままでによんだ本(雑誌やまんが本でないもの)のうちで、いちばん好きな本は何ですか。その本の名をかいってください。(一さつでなくてよい)

答

本の名	本の名
その本の好きなわけをかいってください。(どれか一さつだけ)	
本の名	

問5 あなたは本や雑誌やまんが本をよむのにおもに、どのようにしてよみますか。(本や雑誌やまんが本のそれぞれのらんに○印をつけてください。一つでなくてよい)

答

よむ方法	本	雑誌	まんが
(1)学校図書館(室)の本をよむ			
(2)学校文庫の本をかりてよむ			
(3)学校のほかの図書館の本をよむ			
(4)貸本屋からかりてよむ			
(5)友だちからかりてよむ			
(6)自分で買ってよむ			
(7)家の人に買ってもらつてよむ			
(8)家にあるのをよむ			
(9)そのほか(書いてください)			

問6 あなたは、きのう一日つぎのものをよんだり、見たり、聞いたりするのに、何時間ぐらいつかいましたか。あてはまるところに○印をいれてください。

	(イ) 0分	(ロ) 30分まで	(ハ) 30分～ 1時間	(ニ) 1時間～ 2時間	(ホ) 2時間～ 3時間	(ヘ) 3時間以上
1 本						
2 雑誌						
3 まんが						
4 ラジオ						
5 テレビ						

問7 あなたの好きなラジオ番組とテレビ番組は何ですか。その番組の名をかいってください。

答

ラジオ番組	テレビ番組

別表 4

## (第八回) 中学生の読書世論調査 (昭36.6)

男女別と学年に○印をつけてください				
男	女	一年生	二年生	三年生

問4 あなたは本や雑誌やまんが本を読むのに、おもにどのようにして読みますか。(答のらんに○印をつけてください。一つでなくてもよい)

問1 あなたはいつもどんな雑誌を読んでいますか。読んでいる雑誌の名を書いてください。その中であなたが毎月(または毎週)買っている雑誌には○印をつけてください。

答

○印	雑誌の名	○印	雑誌の名

問2 あなたは四月からいままでに、教科書や参考書や雑誌をのぞいてどんな本を読みましたか。読んだ本の名を書いてください。まんがの本には○印をつけてください。

答

○印	本の名	○印	本の名

問3 あなたがいままでに読んだ本(雑誌でないもの)のうちでいちばん好きな本は何ですか。その本の名をかいてください。(一冊でなくてよい)

答 A

本の名	本の名

B なぞ好きなのか、そのわけをかんたんに書いてください。(一冊だけよい)

本の名\_\_\_\_\_

答

読む方法	本	雑誌	まんが
(1)学校の図書館(室)の本を読む			
(2)学級文庫の本を借りて読む			
(3)学校のほかの図書館の本を読む			
(4)民本屋から借りて読む			
(5)友だちから借りて読む			
(6)自分で買って読む			
(7)家の人に買ってもらうて読む			
(8)家にあるのを読む			
(9)そのほか(書いてください)			

問5 あなたは、きのう一日のうちつぎのものを読んだり、見たり聞いたりするのに何時間ぐらいかかりましたか。あてはまるところに○印をいれてください。

	(イ) 0分	(ロ) 30分まで	(ハ) 30分～1時間	(ニ) 1時間～2時間	(ホ) 2時間～3時間	(ヘ) 3時間以上
1 本						
2 雑誌						
3 まんが						
4 ラジオ						
5 テレビ						

問6 あなたの好きなラジオ番組とテレビ番組は何ですか。その番組の名を書いてください。

ラジオ番組	テレビ番組

戦後日本のおもな読書調査について

別表 5

(第8回) 高校生の読書世論調査 (昭36.6)

性別、学年に○印をつけてください				
男	女	一年生	二年生	三年生

問1 あなたが読んでいる雑誌(週刊誌を含む)は何ですか。雑誌名を書き、買っているものには○印をつけてください。

答

○印	月	刊	誌	○印	週	刊	誌

問2 あなたはこの一カ月間に本を何冊ぐらい読みましたか。(教科書、雑誌、参考書を除く)

答 (イ) 0冊 (ロ) 1~2冊 (ハ) 3~5冊 (ニ) 6冊以上

問3 あなたが最近読んだ本のうちで、よいと思ったものは何ですか。文学書と文学書以外のものに分けて、その書名を記入し、著者名は( )内に書いてください。

答

文 学 書	文学書以外の書
( )	( )
( )	( )

B 上記の本について、よいと思った点を簡単に書いてください。  
(一冊だけ) 書 名

C その本(Bに答えた本)を読んだ動機は。次のどれですか。

- |              |                   |
|--------------|-------------------|
| 1 新聞の新刊紹介や書評 | 2 週刊誌、月刊誌の新刊紹介や書評 |
| 3 新聞の広告      | 4 雑誌の広告           |
| 5 ラジオ、テレビから  | 6 映画をみて           |
| 7 友人にすすめられて  | 8 先生にすすめられて       |
| 9 家族にすすめられて  | 10 パスト・セラーだから     |
| 11 家にあったから   | 12 ポスター、看板をみて     |
| 13 書店で見て     | 14 その他(具体的に)      |

問4 あなたは五月中に、本(参考書を含む)雑誌を買うのにどのくらい使いましたか(父兄に買ってもらったのを含む)

答

- |            |            |            |
|------------|------------|------------|
| (1) 使わない   | (2) 100円まで | (3) 200円まで |
| (4) 300円まで | (5) 400円まで | (6) 500円まで |
| (7) 700円まで | (8) 700円以上 |            |

問5 あなたは本を読むのに、おもに次のどの方法で読みますか。  
(○印をつけてください。一つに限りません)

答

- |                      |               |
|----------------------|---------------|
| (1) 学校図書館の本を読む       | (2) 学校文庫の本を読む |
| (3) 学校以外の図書館の本を読む    | (4) 貸本屋で借りる   |
| (5) 友人に借りる           | (6) 自分で買う     |
| (7) 父兄に買ってもらう        | (8) 家にあるのを読む  |
| (9) その他(具体的に書いてください) |               |

問6 あなたがいま買いたいと思っている本(参考書、辞(事)典類を含む)は何ですか。書名を書いてください。(著者名または出版社名も分れば書いてください)

答

書 名	著 者、出版社名

問7 あなたのもつとも好きな著者・執筆者の名と、その人の著書のうち好きなものを2冊まで書いてください。

答

著 者、執筆 者 名	好きな 著 書 名

問8 あなたの読んでいる新聞は何ですか。

答

A	
---	--

B あなたはつぎの新聞記事のうち、どれをいちばんよく読みますか。(○印は一つに限りません)

答

- |                       |          |                      |          |
|-----------------------|----------|----------------------|----------|
| (1) 科 学               | (2) スポーツ | (3) 学 芸              | (4) 政 治  |
| (5) 経 済               | (6) 社 会  | (7) 海外ニュース           | (8) 学 生  |
| (9) 映画・演劇             | (10) 社 説 | (11) 書評、読書欄          | (12) 校 書 |
| (13) 婦人・生活            | (14) 小 説 | (15) ラジオ・テレビ欄        |          |
| (16) 日曜特集版            | (17) 広 告 | (18) コラム欄(余録、天声人語など) |          |
| (19) その他(具体的に書いてください) |          |                      |          |

問9 あなたは、きのう一日つぎのものを読んだり、聞いたり、見たりするのに何時間ぐらいかかりましたか。(該当個所に○印をいれてください)

	(イ) 0分	(ロ) 20分まで	(ハ) 30分~ 1時間	(ニ) 1時間~ 2時間	(ホ) 2時間~ 3時間	(ヘ) 3時間 以上
1 本						
2 雑 誌						
3 ラジオ						
4 テレビ						

問10 あなたの好きなラジオの番組とテレビ番組は何ですか。その番組名を書いてください。

答

ラ ジ オ 番 組	テ レ ビ 番 組

## 別表 6

## ——(第八回) 学校図書館調査 (昭和36年6月) ——

学校名	および	所在地	い、学校図書館(室) 有 無	い、学級文庫 有 無
			学校図書館(室)のある場合は以下に記入してください。	
蔵書冊数	冊	生徒数	名	

問1 あなたの学校図書館(室)で、おりあい多く読まれている本は下記のどの種類の本ですか。三つまで○印をつけてください。

- (1) 年 鑑 (2) 辞(事)典 (3) 図 鑑 (4) 哲 学 (5) 歴 史 (6) 伝 記 (7) 地誌、紀行  
 (8) 社会科学 (9) 数学・物理・化学 (10) 動・植 物 (11) その他の自然科学 (12) 工学・工業・家事 (13) 産 業 (14) 芸 術  
 (15) スポーツ (16) 遊 園 (17) 絵 物 語 (18) 童 話 (19) 少年少女小説 (20) 小 説 (21) 語 学  
 (22) 詩歌、俳句集 (23) その他(具体的に)

問2 あなたが生徒(児童)に読ませたいと思う書籍(教科書を除く)は何ですか。書名と出版社名を書いてください。

低 学 年 向		中 学 年 向		高 学 年 向	
書 名	出 版 社	書 名	出 版 社	書 名	出 版 社

問3 いまあなたの学校図書館(室)で、出版をとくに希望しているのはどの分野の本ですか。下記の該当箇所に○印をつけ、さらに空欄に具体的に書いてください。

	低 学 年 向	中 学 年 向	高 学 年 向
0 総 記			
1 哲 学			
2 歴 史			
3 社会科学			
4 自然科学			
5 工 学			
6 産 業			
7 芸 術			
8 語 学			
9 文 学			

問4 あなたの学校図書館(室)ではどのような新聞、雑誌(週刊誌を含む)を備えていますか。

新 聞 名					
雑 誌 名					

問5 あなたの学校で昨年度における学校図書館(室)費の決算はどれくらいでしたか。その内訳を書いてください。

公費又は校費	P.T.A.費	生徒会費	児童生徒からの徴収	合 計	
円	円	円	円	円	円

合計額のうち、純粋の図書購入費はどのくらいですか。

問6 学校図書館の運営上、もつとも要望されることは何ですか。

—— 毎 日 新 聞 社 調 査 部 ——

戦後日本のおもな読書調査について

別表 7

※(記入シテ)	読 書 社 会 調 査	第 6 回 全 国 市 部 日 本 読 書 学 会 昭和34年11月施行	拒 否 不 能 小 学 生 以 下
都 市 名			
店 番 号			
調 査 員 氏 名			
調 査 番 号			

ただいま、日本読書学会が読書社会調査を行っております。調査結果は統計的に処理されますから、決してご迷惑をおかけするようなことはございません。どうかしばらくの間この調査にご協力下さい。

問 0 いまお買いになったものは……………

1. 単 行 書		2. 雑誌 (週刊誌を除く)	
書 名		誌 名	
編 著 者		月 号	
(訳 者)		ど れ か	巻 号
シ リーズ の 場 合		一 つ	通 巻 号
シ リーズ 名 巻 数			
続 け て 買 っ て い ま す か		続 け て 買 っ て い ま す か	
1. はい 2. いいえ		1. はい 2. いいえ	
発 行 所		定 価	円
判 型	1. 文庫判 2. 新書判 3. B 6 判 4. A 5 判 5. B 5 判 6. A 4 判 7. B 4 判 8. その他		

一緒に買った冊数(買った本も含めて)単行書 冊・雑誌 冊・計 冊  
(1)

では、いまお買いになったこの本(雑誌)についてうかがいます。

問 3

[1] あなたはこの本(雑誌)について【別紙3】

a. 新聞の広告でみましたか。

0. ない

1. み た ⇒ 何新聞ですか。

1. 読 売 2. 朝 日 3. 毎 日 4. 日 経 5. 産 経

6. 道 新 7. 中 日 8. 西 日 本 9. その他 記入

⇒それは確かにこの出版社の版(この号)についてでしたか。

1. 確 か 2. あまり確かでない 3. 分らない

b. 新聞の新刊紹介・書評でみたことがありますか。

0. ない

1. み た ⇒ 何新聞ですか。

1. 読 売 2. 朝 日 3. 毎 日 4. 日 経 5. 産 経

6. 道 新 7. 中 日 8. 西 日 本 9. その他 記入

⇒それは確かにこの出版社の版(この号)についてでしたか。

1. 確 か 2. あまり確かでない 3. 分らない

c. 書評新聞の記事または広告でみたことがありますか。

0. ない

1. み た ⇒ 何新聞ですか。

1. 日本読書新聞 2. 図書新聞 3. 週刊読書人

⇒それは確かにこの出版社の版(この号)についてでしたか。

1. 確 か 2. あまり確かでない 3. 分らない

(3)

問 1 この本をお買いになったのは【別紙1】のどれですか。

- 1) 自分で読むため
- 2) ほかの人に読ませるため
- 3) ほかの人から頼まれた(次を聞くこと)

3. 1 この本を買ってくるように頼まれた……………⇒ 問 8 へとぶ

3. 2 この著者のものを買ってくるように頼まれた
3. 3 このような内容のものを買ってくるように頼まれた
3. 4 何でもいから本を買ってくるように頼まれた

3. 5 その他 記入

4) その他 記入

問 2 はじめからこの本(この著者のこの題名の本、または、この雑誌)を買う目的でこの本屋へいらしたのですか。

1) はい ⇒ この出版社のこの版(またはこの号)ときましたか。

11. はい 12. いいえ

2) いいえ ⇒ 2. 1. ではどういう目的でこの本屋へいらしたのですか。

【別紙2】

1. 買う本はだいたい決めてきた
2. 別のきまった本を買おうと思ってきた
3. おおよその主題や形式は決めてきた
4. 何か本を買おうと思ってきた
5. ぶらっと本を見にきた
6. 何気なく立ち寄った
7. その他 記入

⇒2. 2. なぜ、特にこの本(この著者のこの題名のもの、またはこの号)を選んだのですか。

記入

(2)

d. 週刊誌の広告または新刊紹介でみたことがありますか。

0. ない

1. み た ⇒ その誌名は

1. 週刊読売 2. 週刊朝日 3. 朝日ジャーナル
4. サンデー毎日 5. 週刊サンケイ 6. 週刊新潮
7. 週刊東京 8. 週刊女性 9. 週刊女性自身
10. 週刊文春 11. 週刊現代 12. 週刊平凡
13. 週刊明星 14. 週刊文芸 15. スポーツ関係週刊誌
16. その他

⇒それは確かにこの出版社の版(この号)についてでしたか。

1. 確 か 2. あまり確かでない 3. 分らない

e. 雑誌の広告または新刊紹介でみたことがありますか。

0. ない

1. み た ⇒ 雑誌名 記入

⇒それは確かにこの出版社の版(この号)についてでしたか。

1. 確 か 2. あまり確かでない 3. 分らない

f. ラジオまたはテレビでみたことがありますか。

0. ない

1. み た ⇒ それはなんですか

1. ラジオの広告 2. ラジオの番組 3. テレビの広告
4. テレビの番組

⇒それは確かにこの出版社の版(この号)についてでしたか。

1. 確 か 2. あまり確かでない 3. 分らない

g. 映画でみたことがありますか。

0. ない

1. み た

⇒それは確かにこの出版社の版(この号)についてでしたか。

1. 確 か 2. あまり確かでない 3. 分らない

(4)



h. 出版社の広告類でみたことがありますか。

0. みない

1. み た ⇒ それはなんですか

- |                    |           |            |
|--------------------|-----------|------------|
| 1. ポスター            | 2. 図書目録   | 3. 内容見本    |
| 4. PR誌「Books」「机」など | 5. チラシ    |            |
| 6. ハガキ案内           | 7. アトック広告 | 8. 取次の広告など |
| 9. 案内広告            | 10. その他   | 記入         |

⇒それは確かにこの出版社の版（この号）についてでしたか。

1. 確 か      2. あまり確かでない      3. 分らない

i. 選定、推せん図書目録などでみたことがありますか。

0. みない

1. み た

⇒それは確かにこの出版社の版（この号）についてでしたか。

1. 確 か      2. あまり確かでない      3. 分らない

j. 前に本屋の店頭や広告でみたことがありますか。

0. みない

1. み た ⇒ 1. 店 頭（書棚・ウィンドウ）

2. 廣 告

⇒それは確かにこの出版社の版（この号）についてでしたか。

1. 確 か      2. あまり確かでない      3. 分らない

k. 人から聞いたことがありますか。

0. な い

1. あ る ⇒ それは誰ですか

- |            |            |             |
|------------|------------|-------------|
| 1. 先生または先輩 | 2. 学友または同僚 | 3. 後輩または教え子 |
| 4. 近所の人    | 5. 家 族     | 6. その他      |

⇒それは確かにこの出版社の版（この号）についてでしたか。

1. 確 か      2. あまり確かでない      3. 分らない

( 5 )

問 4 <問 1で「自分で読むため」とこたえたものにだけ聞く。他は非該当>

では、この本をどういうふうにご利用するつもりでお買いになったのですか。

どれか一番ぴったりするものをつだけあげて下さい。【別紙 4】

- |                        |                  |
|------------------------|------------------|
| Y. 非該当（人によませる、人から頼まれた） | 1. 学校の勉強に役立てたい   |
| 2. 仕事または研究に役立てたい       | 3. 一般的な教養を高めたい   |
| 4. 人生の問題を考える助けにしたい     | 5. ベストセラーなどに接したい |
| 6. 時勢におくれないようにしたい      | 7. 読んで楽しむため      |
| 8. 気晴しのため              | 9. 自分の趣味に役立てたい   |

0. その他

記入

問 5 <問 1で「自分で読むため」とこたえたものにだけ聞く。他は非該当>

このお買いになった本をどういうふうにお読みになるつもりですか。

【別紙 5】

- |                        |               |
|------------------------|---------------|
| Y. 非該当（人によませる、人から頼まれた） | 1. 全部をすぐ読み通す  |
| 2. よみたいところをすぐ読む        | 3. 必要なときに全部読む |
| 4. 必要なときに読みたいところを読む    | 5. ひまをみて全部読む  |
| 6. ひまをみて読みたいところを読む     | 7. ひまがあったら読む  |

8. その他

記入

問 6 この一カ月間に本や雑誌（週刊誌を除く）を何冊読みましたか。

雑誌 \_\_\_\_\_ 冊  
単行本 \_\_\_\_\_ 冊  
計 \_\_\_\_\_ 冊

( 7 )

1. 他の本（雑誌）に出ていたのをみたことがありますか。

0. みない

1. み た

⇒それは確かにこの出版社の版（この号）についてでしたか。

1. 確 か      2. あまり確かでない      3. 分らない

m. そのほか見たり聞いたりしたことがありますか。

0. な い

1. あ り

記入

⇒それは確かにこの出版社の版（この号）についてでしたか。

1. 確 か      2. あまり確かでない      3. 分らない

[ 2 ]

<「みたものが一つ以上ある人に対して」>

1) いまおっしゃった中で、この本（雑誌）を買う気持をおこされたものがありますか。あったら一つだけあげてください。

0. な い

1. あ る ⇒ 該当するものに◎印をつける。

a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

⇒それはいつごろですか。

- |           |           |           |          |
|-----------|-----------|-----------|----------|
| 11. 今日    | 12. 三日未満  | 13. 一週間未満 | 14. 半月未満 |
| 15. 一ヶ月未満 | 16. 三ヶ月未満 | 17. 半年未満  | 18. 半年以上 |
| 19. 不 明   |           |           |          |

<「みたものが一つもない人」に>

2) それではこの本が出ていることを、この本屋ではじめて知りましたか。

1. は い      2. いいえ <知っていたが何で知ったか不明>      3. 不 明

( 6 )

問 7 1. 新刊書について知りたいとき、あなたは次のどれが役に立つと思いますか。【別紙 6】

a	b	c	d	e	f	g	h	i
---	---	---	---	---	---	---	---	---

( 答えたものに )  
◎をつける

2. ではふだんあなたは新刊書について

a. 新聞広告をみていますか。

1. みている      2. ととききみる      3. あまりみない      4. みない

b. 新聞の新刊紹介や書評をみていますか。

1. みている      2. ととききみる      3. あまりみない      4. みない

c. 書評新聞を利用して見ますか。

1. みている      2. ととききみる      3. あまりみない      4. みない

d. 週刊誌の広告や紹介をみていますか。

1. みている      2. ととききみる      3. あまりみない      4. みない

(もう一度これをいう) ふだんあなたは新刊書について

e. 雑誌の広告や新刊紹介をみていますか。

1. みている      2. ととききみる      3. あまりみない      4. みない

f. ラジオやテレビの広告や紹介を利用して見ますか。

1. 利用している      2. とときき利用する      3. あまり利用しない      4. 利用しない

g. 出版社の新刊通知や目録・ポスターなどをみていますか。

1. みている      2. ととききみる      3. あまりみない      4. みない

h. 書店へ行って見ますか。

1. み る      2. ととききみる      3. あまりみない      4. みない

i. その他何か利用していますか。

1. い る      2. い ない

記入

( 8 )

## 戦後日本のおもな読書調査について

問8 あなたが一番よく目を通しているのは何新聞ですか。(一つだけ)

1. 読 売      2. 朝 日      3. 毎 日      4. 日 経  
5. 産 経      6. 道 新      7. 中 日      8. 西日本  
9. その他 記入

問9 一番よく目を通している週刊誌はなんですか。(一つだけ)

1. 週刊読売      2. 週刊朝日      3. 朝日ジャーナル  
4. サンデー毎日      5. 週刊サンケイ      6. 週刊新潮  
7. 週刊東京      8. 週刊女性      9. 週刊女性自身  
10. 週刊文春      11. 週刊現代      12. 週刊平凡  
13. 週刊明星      14. 週刊公論      15. スポーツ関係週刊誌  
16. その他

問10 毎号きまってよむ雑誌(週刊誌を除く)がありましたら主なものの一つだけあげてください。

1. あ り 記入  
2. な し

では、あなたご自身のことをおうかがいします。

問11 性 別      1. 男      2. 女

問12 年 令      満      才

問13 学 歴【別紙7】(在学中・中退は卒業とみなす)

1. 小学校      2. 旧制高等小学校      3. 新制中学  
4. 旧制中学      5. 新制高校      6. 旧制高专  
7. 短 大      8. 旧制大学      9. 新制大学  
0. 大学院

問14 あなたのおもな職業はなんですか。

1. 具体的に記入すること。

会社(商店)名	地 位・職 名	経路(使用)人数
		名

⇒あなたは職務上、本や雑誌をご利用になりますか。

1. す る      2. しない

2. 学 生

学校名	(該当を○でかこむ) イ、大学一部 ロ、大学二部 ハ、全日制高校 ニ、定時制高校

3. 主 婦

4. 無 職

( 9 )

( 10 )

問15 失礼ですが、あなたの手取り収入は一月どのくらいですか。

【別紙8】

a)

1.      ～10,000円      2. 10,001円～15,000円  
3. 15,001円～20,000円      4. 20,001円～30,000円  
5. 30,001円～40,000円      6. 40,001円～50,000円  
7. 50,001円以上      R. 不 明

b) 学生・主婦・無職

問16 あなたの一か月の書籍費はどのくらいですか。

円ぐらい。

調査結果と記念品をお送りしたいと存じますので、お名前とお所をお聞かせ下さい。

住 所
氏 名

どうもお忙しいところを、有難うございました。

( 11 )

〔別紙 1〕

- 1 自分で読むため
- 2 ほかにの人に読ませるため
- 3 ほかにの人からたのまれた
  - 3.1 この本を買ってくるように頼まれた
  - 3.2 この著者のものを買ってくるように頼まれた
  - 3.3 このような内容のものを買ってくるように頼まれた
  - 3.4 何でもいから本を買ってくるように頼まれた
  - 3.5 その他
- 4 その他

〔別紙 2〕

- 1 買う本はだいたい決めてきた
- 2 別のきまった本を買おうと思ってきた
- 3 おおよその主題や形式は決めてきた
- 4 何か本を買おうと思ってきた
- 5 ぶらっと本を見にきた
- 6 何気なく立ち寄った
- 7 その他

〔別紙 3〕

- a 新聞の広告
- b 新聞の新刊紹介：批評
- c 書評新聞
- d 週刊誌の広告又は新刊紹介
- e 雑誌の広告又は新刊紹介
- f ラジオ又はテレビ
- g 映画
- h 出版社の広告類
- i 選定，推せん図書目録
- j 前に本屋でみた
- k 人から聞いた
- l 他の本（雑誌）に出ていた
- m その他

〔別紙 4〕

- 1 学校の勉強に役立てたい
- 2 仕事又は研究に役立てたい
- 3 一般的な教養を高めたい
- 4 人生の問題を考える助けにしたい
- 5 ベストセラーなどに接したい
- 6 時勢におくれないようにしたい
- 7 読んで楽しむため
- 8 気晴しのため
- 9 自分の趣味に役立てたい
- 0 その他

〔別紙 5〕

- 1 全部をすぐ読みとおす
- 2 よみたいところをすぐ読む
- 3 必要なときに全部読む
- 4 必要なときに読みたいところを読む
- 5 ひまをみて全部読む
- 6 ひまをみて読みたいところを読む
- 7 ひまがあったら読む
- 8 その他

〔別紙 6〕

- a 新聞広告
- b 新聞の新刊紹介や書評
- c 書評新聞
- d 週刊誌の広告や紹介
- e 雑誌の広告又は新刊紹介
- f ラジオ又はテレビ
- g 出版社の広告類
- h 書店
- i その他

〔別紙 7〕

- 1 小学校
- 2 旧制高等小学校

戦後日本のおもな読書調査について

- 3 新制中学
- 4 旧制中学
- 5 新制高校
- 6 旧制高専
- 7 短大
- 8 旧制大学
- 9 新制大学
- 0 大学院

〔別紙 8〕

- 1                    ~ 10,000円
- 2 10,001円 ~ 15,000円
- 3 15,001円 ~ 20,000円
- 4 20,001円 ~ 30,000円
- 5 30,001円 ~ 40,000円
- 6 40,001円 ~ 50,000円
- 7 50,001円以上